

将来のために、今できること

市は、移住・定住の促進を行政だけではなく、市民や市内の団体、企業と連携・協力して進めるため「登米市移住・定住官民連携促進会議」を設置。登米市全体を巻き込んで取り組んでいます。私たち市民には何が求められるのかを移住・定住官民連携促進会議の及川委員長に聞きました。

人はすぐに増えないが、登米市を選択する「きっかけ」をつくることはできる

ライフスタイルを見直し、移住を検討する若い人が増えていますが、最初は「何となく生活を変えたい」「こんなまちがいいな」と漠然とした思いから移住を考えるものです。そのときに登米市が移住先の選択肢になる「きっかけ」をつくるのが重要。そのきっかけをつくるためには、市民全員が地域の良さを言えるようになることが大切です。

とめタウンネットの事業で、東京都に住む大学生が登米市に来ることがありますが、移住したいという学生も実際にいます。そう思わせる最大の要因は人とのつながり。登米市に来たときに人の温かさに触れ、絆が生まれることで、また来たいと思うようになりま。そして、いい思い出や人との出会いというのは人から人へ伝わり、どこまでも広がる可能性があります。10年後、20年後に移住を検討したときに、楽しかった思い出や登米市とつながりのある人

から聞いた魅力が心に残っていれば、それが移住先になれるきっかけになるかもしれません。

登米市民には、人を快く受け入れる気質が備わっています。地域のために活動したり、情報発信したりする人も増えています。その一方で、市の将来に無関心な人が多いのも事実。その人たちがどう巻き込んでいけるかが課題です。「ここは何もなくてつまらない」という話を聞くと、悲しさや悔しさがやりきれなくなりま。移住・定住者を増やすためには、活力あるまちを持続していかなければなりません。今すぐに人口減少を止めることは難しいですが、人口が1割減っても、地域を思い、地域を元気にしたいと思う人が1割増えれば登米市の衰退は防げると思います。

地域をあきらめず、活性化させようとする「人」や「コト」を増やしていくことが、結果として移住・定住者を増やすことにつながるはず。

地域を愛し誇れるまちに

美しい自然、地域に息づく文化、全国的に評価が高い食材、職人の伝統の技が生きる工芸品、そして助け合う心を持ち、温かさのある「人」。住んでいると当たり前だと感じていても、移住者から見れば特別なものなのです。

地元に住み続けたい、外に出ても帰って来たいと思うまちにするためには、及川さんが言うように市民みんなが地域への関心を持つことが不可欠であり課題。登米市が好きな人からは新しい魅力が、不満がある人からは改善が生まれます。「無関心」から変化は生まれません。

人口減少という課題は、行政だけでは解決できません。市民が地域を愛し、誇れるまちでなければ人は集まらないからです。一人一人が当事者として問題意識を持ち、行動することが必要です。

あなたが感じる登米市の魅力。その魅力を、ほかの誰でもない、あなた自身が言葉にして伝えていくことが、明るい未来の扉を切り開く鍵になります。



及川 幾雄さん(53)

Profile
NPO法人とめタウンネットの理事長であり、起業支援などの活動を通じて地域コミュニティの再生や地域活性化に尽力。今年3月に登米市移住・定住官民連携促進会議の委員長に就任。